

リーディングDXスクール事業【実践事例】

甲府市立石田小学校（山梨県）

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながる授業活用」

甲府市立石田小学校 リーディングDXスクール事業概念図

「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の育成
自ら学び続ける子どもの育成 ～ICT（1人1台）の効果的な活用を通して～

1人1台のGIGA端末=ICTの普及使い・汎用的なソフトウェアとクラウド環境を徹底的に活用・日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実

令和5年度リーディングDXスクール

GIGA端末の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十全に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを行い、地域に事例を展開する

校内研究 一人一人の子どもの学びを主題にした学校づくり 校務DX

石田小版ICT活用スキル体系表の作成

主体的・対話的で深い学びの
「学習に向かう力・人間性」

主体的・対話的で深い学びの
実現に向けて、**日常の授業**をICTのよさを活かして一歩ずつ改善

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
どんな学び方が「最適」か自分の意思で決める。他者の学びの可視化。いつでも他者参照。自然と生じる協働性。協働を踏まえて自分の学びを更新していく学びの実践。

基礎学力・体験学習
基礎学力・学習態度・学び技能の指導
基礎習得から協働授業へ段階的に実現
Classroomの活用・デジタルポートフォリオ・ルーブリック

低学年から体系的にスキルの育成
日常的に実践・随時見直しと共有

高学年
基礎習得・学習態度・学び技能の指導
基礎習得から協働授業へ段階的に実現
Classroomの活用・デジタルポートフォリオ・ルーブリック

オンラインによる指導案検討
一人一実践

先進校視察・研究会、学習会への積極的な参加

Google認定教育者資格を全員が取得
(Google for Education選任能力の向上)

文部科学省 甲府市教育委員会 山梨大学

・大学の先生との連携した、子供たちが主役となるような授業改善を行う。学校内でICT活用スキル体系表を作成して、全職員でICTの活用スキル体系表をもとにした授業づくりと見直しを行った。これにより学年に応じたICTスキルの再確認ができ、先生達の指導の明確化に繋がった。

学年	基本スキル	タイピング	Meet	Classroom	Jamboard	ドキュメント	スライド	
基本スキル	<ul style="list-style-type: none"> たんまつアプリをきょう・しゅうりする ファイルやデータをけし、せりりする アプリのインストール カメラでしんしんをとる 	<ul style="list-style-type: none"> はんなのりやスワードをおぼえる たんまつのにらりょうやがめんのおかきをする もつをつくる カメラでどうがをとる はんなのりやスワードをかんしゅうする 	<ul style="list-style-type: none"> ネットではんくさくするときにかのキーボードを入力してはくをする スクリーンショットができる 	<ul style="list-style-type: none"> はんなのりやスワードをおぼえる たんまつのにらりょうやがめんのおかきをする もつをつくる カメラでどうがをとる はんなのりやスワードをかんしゅうする 	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数 ローマ字入力1分間の文字数

(5) ICTを活用した学びの姿
ア ICTを使用するための知識技能を習得した姿（体系表）
・カメラを使用し、写真を撮ることができる。
・Jamboardに画像を挿入することができる。

体系表をもとにした授業づくりと見直し

Classroom > [R5]4-1

ストリーム 授業 メン

全ての職員が日常の授業DXを推進

[R5]4-1

Meet

参加

◎ 生徒に表示

クラスコード

xxifly

期限間近

提出期限の近い課題はあり

【取組内容④】「校務の徹底的な効率化」

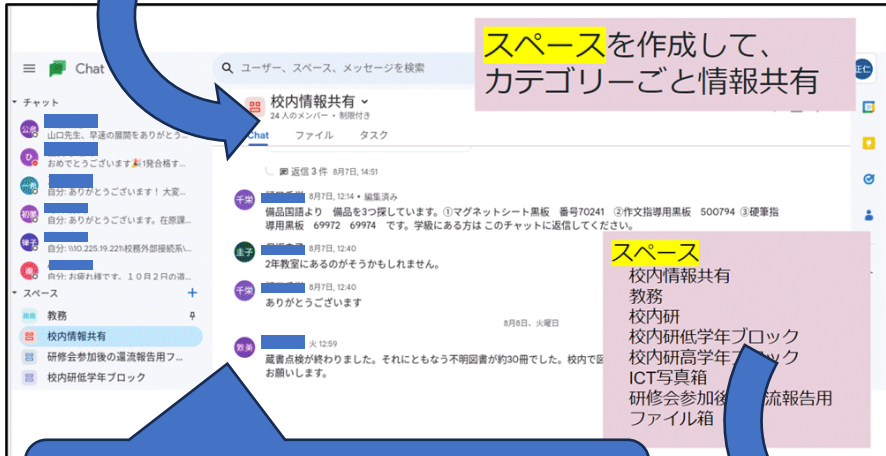
Chat導入前の校内連絡体制の問題点

- | | |
|----------------|---------------|
| ・職員室ホワイトボード | ・気がつかない |
| ・付箋を机上に | ・紛れてしまう |
| ・校内電話 | ・不在のときは |
| ・超緊急連絡は | ・教頭や教務主任が伝え歩く |
| ・週1回の打ち合わせ(口頭) | ・不在のときは |
| ・Face to Face | ・長期休業中は |



Chat導入後の校内連絡体制は、「出勤した時に必ずChatを確認する」というルールを徹底したことで、情報漏れが減り、見直したいデータやファイルの検索が簡単にできたりするなど、紙よりも確実に、迅速な連絡が可能になった。先生達にとって便利で重要なツールとなった。

スペースを作成して、カテゴリーごと情報共有



管理職の先生も「予想以上に便利だった」と評価

Chat導入後の校内連絡体制

- ・出勤したらChatを確認するというルール
- ・付箋をなくすような情報漏れが減る
- ・不在時でも連絡できる
- ・緊急連絡こそ早さがキモ(校内放送とも併用)
- ・記録(データ・共有ファイル)が残る＝検索可能
- ・長期休業中でも連絡がスムーズ
- ・カレンダーでスケジュールの確認

より確実に、迅速な連絡が可能になった

課題: Chatのスペースに入れない職員には、必要に応じて別の方法で連絡する必要


リーディングDXスクール事業【実践事例】

甲府市立石田小学校（山梨県）

【取組内容⑤】「実践内容を公開授業で地域内外に普及」



- ・学校内の取組を地域内外に発信するために、授業公開を実施。
- ・全ての学級でICTを活用した授業を実施することで「学校全体の取組」として発信することができた。
- ・授業公開には、多くの保護者も参加して、ICTの取組が多くの人たちに理解されるように工夫。
- ・講演会もICTの有識者を招聘して、地域のリーディングDXスクールのリーダーとして役割を果たす。



令和5年度文部科学省リーディングDXスクール事業

Global and Innovation Gateway for ALL

GIGAスクール授業公開のご案内

子どもが主語になる授業をめざして

GIGA参観日@甲府市立石田小学校

全10学級でGIGA端末
クロームブック
を活用した実践を公開



※この日は、学校開放日として保護者も参観に来校します。

13:00～ 受付
13:30～14:15 授業公開1・2・3年

甲府市立石田小学校 リーディングDXスクール事業概念図

「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の育成
自ら学び続ける子どもの育成 ～ICT（1人1台）の効果的な活用を通して～

1人1台のGIGA端末=ICTの普段使い・汎用的なソフトウェアとクラウド環境を徹底的に活用・日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実

令和5年度リーディングDXスクール

11月22日

- ・ICTを普段使いする姿を参観していただく地域・保護者への学校開放日を計画

⇓ **「GIGA参観日」を開催**

- ・端末は学習に使うものという意識の醸成

文部科学省 甲府市教育委員会 山梨大学

リーディングDXスクール事業【実践事例】

甲府市立石田小学校（山梨県）

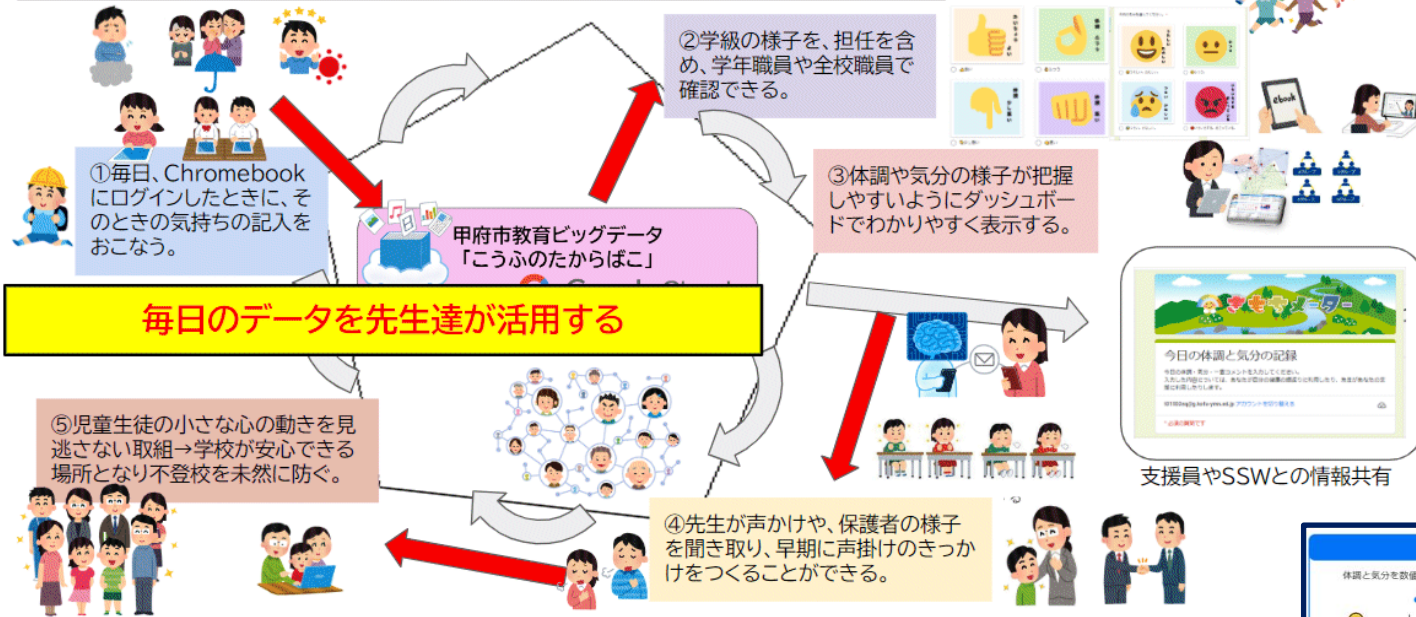
【取組内容⑤】「ICT端末を活用した子ども達の心の健康観察と悩み相談対応」

子どもと教師の繋がりひとつに

こころの様子を可視化する取組(甲府きもちメーター)

ねらい
毎日、こどもの心の様子を記入させることで、不登校の兆候が見られた場合は、早期段階に発見ができ、学習支援や相談支援ができる。

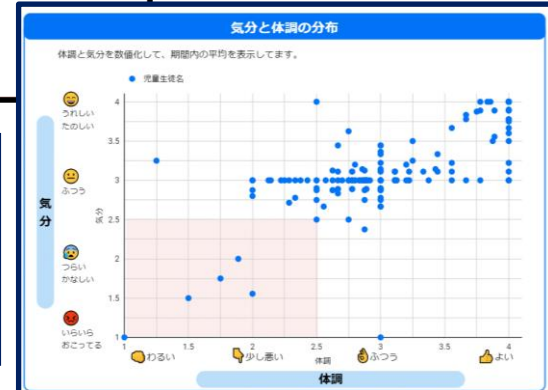
推進基本目標
新たな時代の「まなび」を創り、
子どもの未来を拓くまち



	学習	相談
0	なし	-
0	0:30	-
0	1:00	-
0	なし	-
0	1:30	-
0	なし	ある

・「相談がある」と回答した様子は、学校内の全職員で確認ができ、迅速な対応ができる。

- ・ ICT 端末を利用する事で、子ども達の様子を可視化する取組のサイクル
- 1. 毎日、ICT 端末にログオンするとアンケートが実施。
- 2. リアルタイムで集計されて教師用のダッシュボードに表示。
- 3. 日常の声かけの参考にする。先生達が子ども達をサポートするアンテナのひとつとして



リーディングDXスクール事業【実践事例】

甲府市立石田小学校（山梨県）

【取組内容④】「校務の徹底的な効率化」 朝の欠席連絡のシステム化、見える化による業務効率化

いつでも、どこからでも入力可能

朝の忙しい時間帯にも詳細を確認できる

データを蓄積から、連続して欠席している児童生徒が可視化されて、指導に活用する事ができる。

フォームを利用する事でどの学校でも持続的に活用が可能

一覧を表示して全校の様子を表示。職員室で掲示しておく工夫

クラス・学年ごとに瞬時に集計

- ・学校にとってのメリット**
1. 事務処理の負担軽減
 2. 電話での伝達による情報漏洩のリスクを減らせる
 3. 保護者とのコミュニケーションの円滑化
 4. どこからでもリアルタイム確認が可能

- ・保護者にとってのメリット**
1. 時間や場所を選ばずに連絡できる
 2. 電話が繋がりにくい時間帯の負担を軽減
 3. Webフォームに入力するだけで、簡単に連絡できる
 4. 口頭での伝達による誤字脱字や伝え間違いを防げる